

講演会・見学会

忘れられた仏教天文学

おじま
りようしんじ
小島龍津寺所蔵 須弥山儀の謎

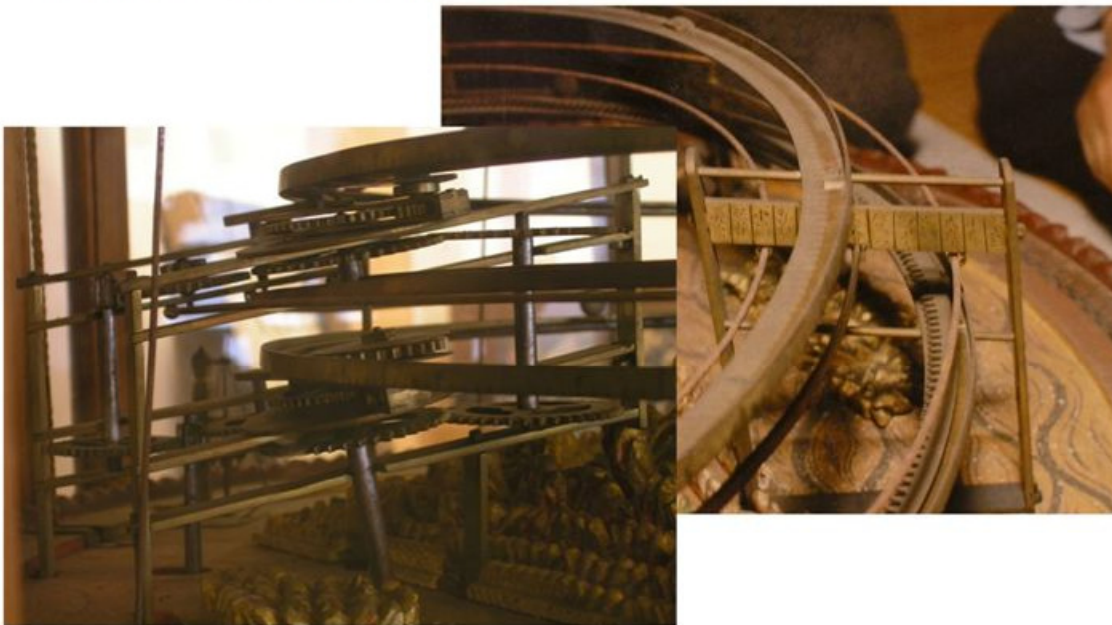
講師 岡田正彦(天理大学人間学部教授)

コレハ、
ツマリ、
何ナノカ？



日時 2010年10月17日(日) 17:00~
場所 龍津寺 本堂(静岡市清水区小島町135 054-393-3028)
入場無料。事前予約不要。

同時開催：手作り腕時計作家、庵 (Ann) 作品展『時世時節』



- * 来場者多数の場合、入場を制限する場合がありますのでご了承下さい。
- * 龍津寺駐車場がご利用いただけますが、なるべく公共交通機関をご利用下さい。
- * JR興津駅からバス・三保山の手線 但沼車庫行き 栗原下車です(裏面に簡易時刻表掲載)。

主催 龍津寺・小島町文化財を守る会・静岡大学人文学部・静岡大学地域社会文化研究ネットワークセンター・鞠水書屋

問い合わせ 小二田誠二(静岡大学人文学部言語文化学科) jjskoni@ipc.shizuoka.ac.jp

講演会・見学会 忘れられた仏教天文学 小島龍津寺所蔵須弥山儀の謎

ご案内

興津から国道52号線を北上して数キロ行くと、左手に大きなお寺があります。拈華山龍津寺。駿河小島藩主滝脇松平家の香華寺として、また、江戸の戯作絵本“黄表紙”の祖、恋川春町こと倉橋寿平の菩提寺としても有名です。

そして、ここには、謎の“宝物”があります。清水市時代に“須弥山器”として文化財指定された、古い大きな機械。

地元の皆さんには和時計として知られているようですが、それが実際どういう物で、何のために作られ、何故そこにあるのか、はっきり調査されないまま今に至っています。

これには、関連資料として「世界大相図」「閻浮提図附日宮図」「天竺輿地図」という、二百年ほど前の刷り物の掛け軸があり、また、幕末から明治前期に至る御住職の日記も二十冊残されています。

これらの資料を読み解くことで見えてくるのは、西洋文化の流入に対抗した仏教の世界観に基づく旧暦を守る運動や、明治維新期の宗教や教育制度の再編といった歴史的大転換が、地方で暮らす人々に取っても大きな意味があったということ。そして、これらの資料は、その大事な証拠品のようです。

今回、近代仏教がご専門で、現在、仏教の暦に関する著書をまとめているらっしゃる、天理大学の岡田正彦先生をお迎えし、龍津寺の須弥山儀の持つ意味について、判りやすくお話しいただきます。

小島の皆さんにとっては、「おなじみのあれ」。そして、多くの皆さんにとって、「そんなものがあつたのか?!」という、謎のお宝に、初めて光が当たります。

当日は、関連する分野に詳しい方々も参加予定のため、思いがけないお話しも飛び出すかも知れません。

まだまだ謎は深まるばかり?! この機会をおみのがしなく。

なお、当日は、地元で活躍する、JHA (Japan Handcraft-watch Association 日本手造り腕時計協会)認可の手作り腕時計作家、庵 (Ann) さんの作品展示コーナー『時世時節 (ときよじせつ)』も併設。秋の小島で、その時々巡り合わせ、その時々移り変わりを味わうひとときをお過ごし下さい。

静岡大学人文学部言語文化学科 教授 小二田誠二



講師紹介

岡田正彦 (おかだまさひこ) 先生

天理大学卒。天理教校本科卒業。大正大学大学院博士課程中退 (宗教学)。アリゾナ州立大学大学院修士課程修了 (宗教学)。スタンフォード大学大学院博士課程修了 (宗教学)。Ph.D. (スタンフォード大学)。現在、天理大学教授。著書に『邪教/殉教の明治-廃仏毀釈と近代仏教-』(翻訳 ジェームス・E・ケテラー著)・『宗教の詩学-テキストとしての「宗教」を読む-』・『グローバル化のなかの宗教』(共著)など。近く『忘れられた「仏教天文学」』を刊行予定。

交通案内

JR興津駅からバス：三保山の手線 但沼車庫行き (幕番号250) 約11分、栗原下車、徒歩2分。

興津駅前 15:15 15:39 16:03 16:27

* 帰りのバス：本数が少ないので、帰りは自動車でご来場の皆様のご協力もお願いします。

栗原 (18:56 三保車庫前行き) 19:42 (清水駅行き) 20:24 (清水駅行き) (最終)

* 19時頃終了を予定しています。

* 当日昼間は、酒瓶 (さかべ) 神社奉納相撲大会が催されます。

また、付近の国指定史跡“小島陣屋跡”は一見の価値あり。

早めにお越しになり、秋の小島を散策されることをお奨めします。

* 龍津寺で「小島の史跡、文化財所在図 (小島町文化財を守る会)」を配布しています。